

学びの広場

2021
8月号

問 教育課 学校教育係 ☎(83)7023 生涯学習係 ☎(83)7021

神山自治会の 生涯学習活動について

松田町の町史を見ると明治22年、松田惣領・松田庶子・神山村が合併、昭和30年に寄村が合併し、現在の松田町に至るとのこと。

現在、神山では300軒弱の世帯が自治会に加入され、昔の一村が現在の一自治会である神山自治会になっております。

神山には先人の遺産の神社があり、昨年、改修工事を行いました。一自治会での対応は厳しいものではありませんが、自治会皆さんの賛同、先人が残してくれたお金、ご寄付などで実施でき、将来の住人に先人の遺産を繋ぐことができたかと思っております。

さて、神山自治会の「生涯学習」活動についてですが、遊びと学びの機会場の提供として、最も大きな行事が8月の納涼大会で、多くの役員・協力者により運営され、射的・かけそば・

焼き鳥・宝くじなどを多くの方が楽しめます。ただし、昨年、今年ともにコロナで中止。子どもには他にも青少年育成会が通学見守り、親子バーベキュー、年末の神社清掃の参加などが企画されます。ただ、これらもコロナ禍で実施困難な状況。一方、参加人数は少ない(10〜20人)もの、コロナ禍でも毎月定期的に集会所で活動が続けられるグループもあります。①神山ふれあい会、②ハッピー神山(写真)、③体操グループ(この5月発足)



ふれあい広場)です。その一方で23年続いたカラオケグループはこの4月で解散されました。

先ずは「一人生涯学習」で自身の興味を見つけ、時に出向き、学ぶ、「生涯学習」は人生を豊かにする方策ですね。

松田 文化財探訪

続・町指定文化財とその周辺 その21

文化財保護委員 鈴木 一行
すずき かずゆき

中尾農道に沿って(八)

「物言い坂」の伝説

松田山登山道でもある中尾農道を登り始めて約20分。坂道が大きく左にカーブする手前に「物言い坂」の由来を記した看板があります。では、その文章を紹介しましょう。



「これより先約五百米を物言い坂と言ひ、農道改修前は現在より急な坂道だった。昔は最(西)明寺まで物を運び上げるのに馬を使っていたが、ある日馬の親子がこの坂にさしかかったところ、仔馬がなかなか登れず、母馬が何か言い聞かせるようにして登ったと言ひ伝えられている」

この話は明治初期に政府によって編纂された『皇国地誌』の「相模国足柄上郡松田庶子」の項に見えます。するとこの伝説は遅くとも江戸後期には成立していたのでしよう。

さて、「昔々、あるところに…」で始まる昔話が時や場所を特定しない物語であるのに対し、「イワレ」「イイッタエ」などと称される伝説はその土地に根ざした形で伝承されてきました。そして、昔話

が空想の楽しさを重んじるのに対し、伝説は事実の信憑性を重んじるものとされています。したがって民俗学では「昔話が童幼の個的な情操の涵養の一面を担うのと対照的に、伝説は集団の一員としての社会性、アイデンティ

イの獲得を第一義とする」と位置付けています。すると「物言い坂」の伝説は、松田庶子の人々が「自分たちは仲間なんだ」という意識を獲得・強化するために語り伝えてきたものということになるのでしようか。

では、この伝説で人々は具体的には何を伝えようとしたのでしよう。例えば中世寺院は領主として税などを取り立てる存在でもあったので、その大変さを馬の親子に託したのでしょうか。それとも「源延」という偉いお坊さんがつくったお寺が私たちの山にはあったんだよ」という共同体の歴史を教えるためのものだったのでしようか。なお源延の伝説として、源延の御守りを持つていた娘が生き返ったという話(谷越えの鈴)が大井町には伝わっています(『大井町史・別編民俗』所収)。